



23春闘 全地本代表者会議を開催し、妥結を判断！

「2023JR総連春闘」をたたかい抜き、「世間相場」を下回る納得感のない回答に立ち向かい
JR東労組の組織強化・拡大をつくり出す中央執行委員会見解

3月14日、申9号第3回団体交渉で会社から回答が示された。回答内容は、定期昇給(昇給係数4)の完全実施は確認できるものの、一律10,000円(物価上昇・生活向上分を含む)の要求からは大きく乖離し、一昨年の定昇カット分の別途支給、第二基本給の凍結、65歳定年制導入の要求実現には至らず、到底納得できる回答ではなかった。

職場からも「なぜ、所定昇給額の1/4+4,000円を加えるという回答なのか」「なぜ、職責による差が生まれるのか」「多くの企業が満額回答を行う中、JR東日本は、なぜ満額回答ではないのか」「定昇2カットにより実際はもっと少ない」「サントリーHDの社長は、未曾有の物価上昇から社員の生活を守るとして、賃上げ7%の回答。しかし、我が社は社員を守らない」「世間相場に程遠い数字。他企業と足並みを揃えるために、再申入れした方がよい」等、怒りの声が寄せられ、中央本部は3月17日に再申入れを提出した。

申12号団体交渉で、会社は開口一番「再申入れいただいたことについては驚きを持って受け止めている」「再申入れとの提起にも関わらず新たな項目が追加されている」「議論を尽くしてきたことから非常に驚きがあり、違和感を感じている」と、あたかも不服であるかのような認識を述べた。そして、私たちが6360件以上の怒りの声をぶつけたことに対して「6000件の組合員・社員の声があったことは受け止めた」「受け止めた状況の中でも回答は変わるものでない」「収入は8割強、利益は2割強という状況」「ベースアップするのは非常に考えに考えた」「歴史的物価高、2年間の賃金引き上げの状況によって社員の生活に影響が及んでいることを考え、踏み込んで回答した」と述べ、認識一致する点はあるものの、組合要求は実現することができなかった。

JR東労組は、年末手当の総括をバネに「統一要求・統一闘争」で、JR総連に結集する全国の仲間と共に連帯・共闘をつくりあげ、23春闘をたたかい抜いてきた。この間、12月からを第1ゾーンとして、組合員と112機関から出された年末手当見解の読み合わせを行い、会社の経営姿勢に立ち向かってきた。同時に組合員・未加入者と議論を深め、自らの確立と組合への組織化や情宣活動などを強化してきた。

さらに第2ゾーンである2月の定期中央委員会で春闘要求を決定してからは、ペア10,000円(物価上昇・生活向上分を含む)という要求を全組合員と議論してきた。また、組合員の生活実態を要求の根幹に据えることで「深澤社長の慎重発言」や「JR連合ペア3,000円要求」「社友会ペア1,000~3,000円要求」という低額相場形成に対し、怒りを持つ組合員がつくり出された。だからこそ、組合員から「なぜペアに差がつくのか」「21春闘では定昇カットされている」と多くの怒りの声上がり、再申入れまでのたたかきを組合員が牽引することで、JR総連春闘を職場からたたかい抜き、JR東労組の組織力を強化することができた。このことが、何よりも23春闘の大きな成果である。

申12号交渉は、悔しくも会社の職場の努力に報いない経営姿勢を崩すことは出来なかった。本日、JR東労組は全地本代表者会議を開催し、組合員の声をもとに最後までたたかい続けることができたことを確認し、23春闘の妥結を判断した。

23春闘は、経営側が、早期に満額の回答を示したり、組合の要求を上回る回答を示したりする異例の状況となった。定期昇給とペアを含めた賃上げ率も高い水準で、全体で賃上げ率が3%台になるとの予想も出てきている。そうすると1994年以来、およそ30年ぶりの高い水準となる。

このような世間相場に押されて会社も慎重姿勢を崩さざるを得なかったと思われる。しかし、世間相場には届いていない。また、営業利益の予測がワースト3だったにもかかわらず、ペアの額は、JR充足以降7番目の水準であったことは、会社の支払い能力があることを証明した春闘でもあった。

しかし、会社は申9号回答の再考を求める私たちの要求に対し「最大限の回答」「踏み込んだ回答」「最終回答」などといった納得感のない回答を繰り返した。このような経営姿勢に対し、決して犠牲みにすることなく、諦めず、立ち向かって行かなければならない！

組合員の皆さん！今こそ「新生JR東労組運動宣言」に基づき、組織強化・拡大を何としてでも成し遂げようではありませんか！同時にバス関東本部・バス東北本部・ステーションサービス協議会の春闘は継続しており、要求実現に向けて職場からたたかいをつくり出している。現在奮闘している仲間と更に連帯し、「2023JR総連春闘」を最後までたたかい抜こう！

職場から一人ひとりの組合員の皆さんが「2023JR総連春闘」をつくり出していることに敬意を表し、中央執行委員会としての見解とする。

2023年3月24日
東日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員会

本体は妥結判断に至りましたが、
バス関東、バス東北、ステーションサービス、23春闘を支持します！

多くの労働組合が妥結する中、最後の最後までたたかい抜きました！
この勢いを夏季手当へと繋げましょう！